世界かんがい施設遺産概要書

倉安川・百間川かんがい排水施設群

～蒼海を「豊穣の大地」に変貌させた用排水路群～

江戸時代初期、人口増加による食料難や度重なる凶作への対処が急務となった岡山藩では、児島湾一帯の大規模な新田開発計画を樹てた。

倉安川は、降雨量が少なくかんがい施設に依存せざるを得ない岡山平野において、東の吉井川と西の旭川とを結ぶという、流域を越えて「水を活かす」画期的な用水路であった。

また、百間川は、旭川の洪水を防ぐとともに、河口に独創的な遊水池と石樋（排水樋門）を組み合わせた、「水を制する」最先端の基幹的排水施設であった。こうして、倉安川と百間川は、一体となって倉田新田・沖新田という２２００ｈａを超える大規模干拓を実現し、「豊穣の大地」を生み出し、食糧増産による地域農業の発展と自立的農家の育成等に極めて大きな役割を果たした。

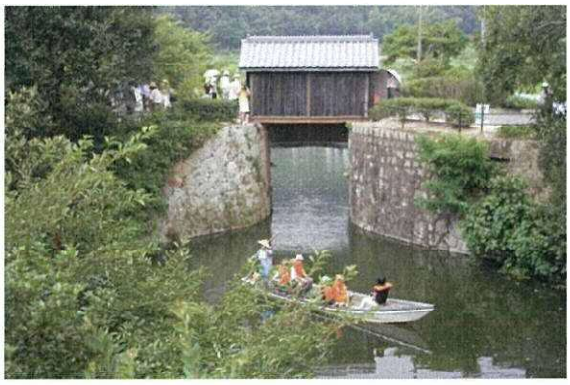
また、その取水口である倉安川吉井水門は、堅牢な花こう岩で築かれた、現存する我が国最古の「閘門式水門」であり、「岡山県指定史跡」でもある。そして、倉安川は運河としての役割も果たした。

これらの施設群は、食料生産力の向上と農村の発展さらには農民の生活の安定に大きく寄与し、高い構想力と先端的技術等は全国の同種施設築造に、理論と実践両面で大きな影響を与えた。

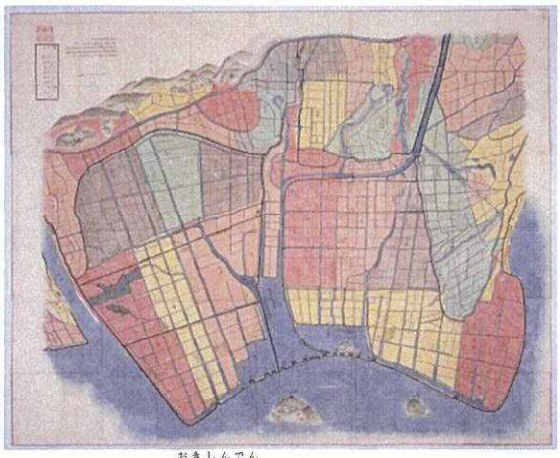
地域では、「倉安川吉井水門保存会」など多くの団体が市民参加のもと、顕彰・保存活動や清掃活動を継続的に実施し、「母なる川」として大切に守り抜かれている。

また、県下小中学校において、『ふるさとおかやま』等の副読本に「岡山の干拓」、「百間川物語」としてひろく採用されている。

「倉安川」と美しい桜。



倉安川取水口としての「倉安川吉井水門」。



「沖新田完成絵図」。
大水尾（遊水池）と河口水門が図示。

日本国内位置図

世界かんがい施設遺産国内申請施設の概要一覧表

1．倉安川（水路）　受益面積２４７２ヘクタール

・東の吉井川と西の旭川を結ぶ延長１９．９キロメートル、幅員４～７メートルのかんがい施設。

・１６７９年、既存の中小河川、沼等を活用し、わずか６ヶ月で開削。

・交差する２３の用水とはすべて花こう岩製の底樋（サイホン構造）で横過。８つの水門と５８カ所の用水樋を有した。

・３２９ヘクタールの倉田新田の水源、さらに後に開発された沖新田へも供給する重要水路。

・「岡山藩郡代津田永忠顕彰会」をはじめ多くの団体が顕彰活動、清掃活動を実施。

2．百間川（排水施設）　排水面積２８６７ヘクタール（新田面積のみ）

・延長１２．９キロメートル。①旭川の洪水防止、②上道郡内の中小河川の排水を処理する排水路、③沖新田開発における基幹的な排水施設としての役割を有する。

・１６８７年、排水機能の高度化を図るため、河口に１１．７キロメートルの海岸堤防を築き、その内陸側に大水尾と呼ばれる巨大な遊水池と花こう岩製の排水樋門を５カ所に設けるという独創的仕組みを開発した。

・２０１８年７月豪雨において、３３０年の時を超えて洪水被害を防ぎ、技術力、構想力の高さが再評価され、県民の認識がさらに高まった。

3．倉安川吉井水門（堰）

・倉安川の取水口であり、１６７９年築造の現存する我が国最古の「閘門式水門」。

・切り石を丹念に積み上げた石垣護岸や水門石柱等高度な建設技術を駆使。

・１９５９年「岡山県史跡」に指定。

・吉井水門によって、倉安川は運河としての機能をも果たした。

・地元の「倉安川吉井水門保存会」、「吉井川下流土地改良区」が一体となって保存・顕彰活動を推進。